

「サヨンの鐘」によせて—「サヨンの鐘」資料一斑—(11 訂稿)

—日本統治下台湾警察史の一齣—

初稿: 平成 17(2005)年 3 月 15 日作成

改訂稿: 平成 18(2006)年 1 月 1 日作成

(HP 初出)再訂稿: 平成 19(2007)年 8 月 7 日作成

三訂稿: 平成 19(2007)年 12 月 4 日作成

四訂稿: 平成 20(2008)年 2 月 6 日作成

五訂稿: 平成 20(2008)年 3 月 15 日作成

六訂稿: 平成 20(2008)年 3 月 20 日作成

七訂稿: 平成 20(2008)年 4 月 2 日作成

八訂稿: 平成 20(2008)年 5 月 3 日作成

九訂稿: 平成 22(2010)年 1 月 16 日(土)作成

十訂稿: 平成 22(2010)年 10 月 8 日(金)作成

十一訂稿: 平成 26(2014)年 11 月 2 日(日)作成

(凡 例)

・本稿は、最初、『台湾協会報』第 606 号(平成 17 年 3 月 15 日刊)に掲載し、その後、一、二改訂を施し、『鷺巣敦哉とその時代(続々輯)—日本統治下台湾警察史雑纂』第六輯—(平成 18 〈2006〉年 1 月 1 日刊)に収録したものに、更に、補訂を加えつつあるものである。なお、後者には、続けて、「サヨンの鐘」に関する各種文献資料紹介を収録したが、ここでは省略した¹。

(HP 初出 再訂稿: 平成 19 年 8 月 7 日作成)

・註 4(台湾関係資料 ⇒その後「註 5」に変更)中の後半部分を追加した。

(三訂稿: 平成 19 年 12 月 4 日作成)

・従来、歌「サヨンの鐘」は、ネット上でも多くのサイトでメロディーを聴くことができた(例えば、台湾の HP 「古い記憶のメロディー」〈<http://www.geocities.jp/abm168/>〉中の「思い出の曲アルバム」及び「軍歌、戦時歌謡アルバム」収録のものが便利である。)が、平成 20(2008)年 1 月 2 日、

¹ その後、改めて、本 HP に、別稿「「サヨンの鐘」関係文献抄—「サヨンの鐘」資料一斑—(改訂稿)—HP 別稿「「サヨンの鐘」によせて—「サヨンの鐘」資料一斑—参考資料—」(平成 20 年 5 月 2 日作成。最新: 五訂稿 平成 22 年 1 月 15 日作成)として、掲載した。

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sayunbunken.pdf>〉

(八訂稿: 平成 20 年 5 月 3 日追加、九訂稿: 平成 22 年 1 月 16 日修正、十訂稿: 平成 26 年 11 月 2 日修正)

「You Tube」に、渡辺はま子歌の当時のレコードが収録されたので、この旨を追加した〈<http://jp.youtube.com/watch?v=G54YpWBhp3I>〉。また、鈴木 明『高砂族に捧げる』関係の頁数を修正した。(四訂稿:平成20年2月6日作成)

・「(追記) 佐塚佐和子歌「蕃社の娘」及び「思い出の蕃山」覚書」を追加するとともに、全体にわたって誤植等を訂正した。(五訂稿:平成20年3月15日作成)

・五訂稿で追加した「(追記) 佐塚佐和子歌「蕃社の娘」及び「思い出の蕃山」覚書」を、本 HP 上の単独の別稿とし、これに対応して、本文を一、二修正した。(六訂稿:平成20年3月20日作成)

・「You Tube」に、レコード「南の星」、「サヨンの歌」及び「なつかしの蕃社」の掲載のこと等を追加するとともに、これに対応して、本文を一、二修正した。

(七訂稿:平成20年4月2日作成)

・別稿「「サヨンの鐘」関係文献抄 — 「サヨンの鐘」資料一斑 — (改訂稿)—HP 別稿「「サヨンの鐘」によせて—「サヨンの鐘」資料一斑— 参考資料—」(平成20年5月2日)掲載に関連し、全体にわたって一、二修正した。

(八訂稿:平成20年5月3日作成)

・別稿「「サヨンの鐘」関係文献抄 — 「サヨンの鐘」資料一斑 — (五訂稿)—HP 別稿「「サヨンの鐘」によせて—「サヨンの鐘」資料一斑— 参考資料—」(平成22年1月15日)差換掲載に関連し、全体にわたって一、二修正した。

(九訂稿:平成22年1月16日作成)

・別稿「「サヨンの鐘」関係文献抄 — 「サヨンの鐘」資料一斑 — (八訂稿)—HP 別稿「「サヨンの鐘」によせて—「サヨンの鐘」資料一斑— 参考資料—」(平成22年10月6日)差換掲載に関連し、全体にわたって一、二修正した。

(十訂稿:平成22年10月8日作成)

・別稿「「サヨンの鐘」関係文献抄 — 「サヨンの鐘」資料一斑 — (九訂稿)—HP 別稿「「サヨンの鐘」によせて—「サヨンの鐘」資料一斑— 参考資料—」(平成22年11月2日)差換掲載に関連し、平成25(2013)年春 DVD『サヨンの鐘 松竹映画 銀幕の名花 傑作選』が刊行されたこと、平成26(2014)年9月7日に山口淑子氏〈李香蘭、1920~2014〉が逝去された(9月14日公表)こと等を中心に、全体にわたって一、二修正した。

(十一訂稿:平成26年11月2日作成)

〔目 次〕

1 はじめに	3
2 歌「サヨンの鐘」	4
(1) 歌「サヨンの鐘」余話	4

(2) 歌詞	6
(3) 曲譜	6
3 映画	7
(1) 映画資料	7
(2) 映画主題歌、挿入歌	8
4 田北正記氏のこと	9
5 おわりに	10

(関連別稿)

*1 (本 HP 別稿) 「サヨンの鐘」関係文献抄 — 「サヨンの鐘」資料一斑— (十訂稿)—HP 別稿「サヨンの鐘」によせて—「サヨンの鐘」資料一斑— 参考資料— (〈HP 初出〉改訂稿: 平成 20 年 5 月 2 日作成、〈最新〉十訂稿: 平成 26 年 11 月 2 日作成)

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sayunbunken.pdf>〉

*2 (本 HP 別稿) 「佐塚佐和子歌「蕃社の娘」及び「思い出の蕃山」覚書」(〈HP 初出〉二訂稿: 平成 20 年 4 月 3 日、〈最新〉八訂稿: 平成 24 年 10 月 2 日作成)

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/satsuka.pdf>〉

1 はじめに

私事で恐縮であるが、台湾関係者でもない筆者が日本統治下台湾歌謡曲の決定版といわれる「サヨンの鐘」(サヨン〈莎韻、莎勇〉: 1922~1938)を初めて聞いたのは、時期的には比較的遅く昭和 47(1972)年秋のことで、あるバス旅行に便乗して蘇花公路を北上している最中であった。たしか南澳の付近で、バスガイドが「日本人が乗っているから」と気を利かして、「このあたりの土地の娘に関係する昔の有名な歌」といって歌ってくれたのが「サヨンの鐘」である。この時「これは素晴らしい曲だ」と思ったが、お恥ずかしいことに、その有する意味を知り得たのは、戦後初めて本格的に「サヨンの鐘」を取り上げた鈴木 明(1926~2003)『高砂族に捧げる』(「5 サヨンの幻」、中央公論社、昭和 51 年 8 月 10 日刊、118~140 頁、中公文庫本〈昭和 55 年 8 月 10 日刊〉115~138 頁参照。)を読んだのである。

「サヨンの鐘」については、今では日台両国の多くの方々がインターネットにも記載しており、更によく知られるようになっていく。ただ、こうした中、歌「サヨンの鐘」の曲譜が何故かなかなか見当たらないので、先に(財)台湾協会事務局にお願いして、『台湾協会報』第 597 号(平成 16 年 6 月 15 日刊)で、御教

示をお願いいたしたところ、早速多数の会員の皆様より曲譜その他について貴重なお教を頂戴できた。

以下では、それらを、資料的に一、二紹介しておきたい。歌「サヨンの鐘」探求の一つのよすがとなれば幸いである。(財)台湾協会事務局及び会員各位の御厚情に対し、謹んで厚く御礼申し上げる次第である。なお、詳しくは、上記関連別稿*1 参照。

2 歌「サヨンの鐘」

(1) 歌「サヨンの鐘」余話

歌「サヨンの鐘」²のレコード(裏面は「南の星」³)は、西條八十(1892~1970)作詞、古賀政男(1904~1978)作曲、奥山貞吉(1887~1956)編曲、渡辺はま子(1910~1999)歌で、昭和 16(1941)年 10 月に発売された。歌「サヨンの鐘」が作

² 従来、歌「サヨンの鐘」は、ネット上でも多くのサイトでメロディーを聴くことができた(例えば、台湾の HP「古い記憶のメロディー」〈<http://www.geocities.jp/abm168/>〉中の「思い出の曲アルバム」及び「軍歌、戦時歌謡アルバム」収録のものが便利である。)が、平成 20(2008)年 1 月 2 日、「You Tube」に、渡辺はま子歌の当時のレコードが収録された。〈<http://jp.youtube.com/watch?v=G54YpWBhp3I>〉。(四訂稿:平成 20 年 2 月 6 日追加)また、同年 4 月 6 日、「You Tube」に胡美芳歌のものが収録された。〈<http://jp.youtube.com/watch?v=ZiWC7DW4HFU>〉。(八訂稿:平成 20 年 5 月 3 日追加)

³ 「南の星」(昭和 16〈1941〉年 10 月 コロンビア「サヨンの鐘」B 面)は、従来上記台湾の HP「古い記憶のメロディー」〈<http://www.geocities.jp/abm168/>〉中の「軍歌、戦時歌謡アルバム」にメロディーが掲載されていたが、その後、平成 20(2008)年 3 月 15 日、霧島昇歌そのものが、「You Tube」に収録された。〈<http://jp.youtube.com/watch?v=DxexLhBvKIs>〉。なお、歌詞は下記のとおりである。(七訂稿:平成 20 年 4 月 2 日追加)

「南の星」:西條八十(1892~1970)作詞、服部良一(1907~1993)作曲、霧島昇(1914~1984)歌

1 赤いヂヤスミン 花咲く島で 若い一夜(いちや)の旅の船
聴いた蕃社(ばんしや)の娘の歌が 忘らりよか 忘らりよか 南の星よ

2 夢の黒潮 小舟で越える 男二十歳(はたち)の春のくれ
波の旅路の行手に見えた 色はむらさき 南の星よ

3 厦門(アモイ)通ひか 別れの汽笛 泣いて送るは誰ぢややら
白いハンケチ 基隆港(キイルンみなど) 霧にかすんだ 南の星よ

4 流れながれて 旅から旅へ 港ぐらしの浮寝鳥(うきねどり)
おもひだすのは あの頃あの夜 若い旅路の 南の星よ

成された経緯について、渡辺はま子が直接台湾総督長谷川 清(1883~1970)に頼んだという話は、周知のことである⁴。

「サヨンの鐘」の作詞者は、もとより西條八十であるが、下村作次郎教授(1949~)『「サヨンの鐘」物語の生成と流布過程に関する実証的研究(1)』『天理台湾学会年報』第10号(天理台湾学会、平成13年3月1日刊)は、『台湾芸術』第3巻第11号(台湾芸術社、昭和17年11月)11頁掲載の「今日の話」によるとして、当初中山 侑(すすむ、1909~1959、昭和十年代初めの一時期『台湾警察時報』編集者。)が原作を作り、その後、「多少修正を加へ中央流行作家西條八十氏歌」としてレコード発売したという逸話を載せている⁵。

中山 侑と「サヨンの鐘」については、中島利郎教授(1947~)『日本統治期台湾文学研究序説』(緑蔭書房、平成16年3月31日刊。「第二章 附録 中山侑著作年譜」75頁が、「昭和16年9月10日、歌謡物語「サヨンの鐘」(作: 中山 侑、独唱: 佐塚佐和子、物語: 岡アナウンサー)を放送」を載せており、おそらく何かあると思われるが、現時点ではなお不明である。中山は当時蕃社のことについても多数書いていた(上記「中山侑著作年譜」参照。)

霧社事件関係者⁶として有名な上記佐塚佐和子(サワ・サツカ、台中州能高郡霧社分室主任佐塚愛祐〈1886~1930〉長女、1914~1977)が台湾でサヨン関係の歌を歌っていたことについては、鈴木 明前掲書、下村前掲論説(169頁)、「響く、響く、サヨンの鐘」・「佐塚嬢が追善演奏」『理蕃の友』第120号(昭和16年12月刊)等各参照⁷。なお、西條八十作詞、古賀政男作曲「サヨンの鐘」のレコー

⁴ 例えば、渡辺はま子「思い出」『長谷川清伝』(長谷川清伝刊行会、昭和47年1月25日刊)425~427頁参照。(平成22年10月8日追加)

⁵ 平成19(2007)年6月に、台湾のまろやか翁(りょうらいふく氏、1922~)が管理、運営し、同地のヤベ氏(葉雪淳氏、1930~2011?)及び我が台湾諸学研究家三田裕次氏のお二方が協力されている上記台湾のHPサイト「古い記憶のメロディー」〈<http://www.geocities.jp/abm168/>〉上の「ゲストブック」過去ログ^⑧、^⑨で、「サヨンの鐘」について、KMT氏より様々なことが指摘されており、「サヨンの鐘」作詞過程についても、寔に興味深い見解が出ている(「平成19年6月20日記事」参照。これには、現在花蓮・吉安御在住の葉梅松老師〈95歳〉関連記載がある。)。また、その後、平成19(2007)年11月12日、台湾の澤庵氏のHP「植民世代」に「歌曲『莎韻之鐘』相關文獻的查證」〈<http://tw.myblog.yahoo.com/jw!VC00iUmLHwKalCCy98M4/article?mid=104&prev=-1&next=97>〉にも貴重な記事が掲載された。(本註の後半部分: 三訂稿: 平成19年12月4日、八訂稿: 平成20年5月3日各追加、ヤベ氏〈葉雪淳氏〉の御逝去につき十訂稿: 平成26年11月2日各追加)

⁶ 近年霧社事件研究が更に進んでいるが、同事件に絡む女性に関する研究の進展も著しい。例えば、李文茹「台湾原住民女性の「声」として語ること」『社会文学』第27号(日本社会文学会、平成20年2月25日刊)54~66頁参照。(八訂稿: 平成20年5月3日追加)

ド吹込者には、渡辺はま子の他には、胡美芳(1926~)がいる⁸。

(2) 歌詞

歌詞については、『理蕃の友』第112号(昭和16年9月刊)第9面に記載され、また、戦後も各種資料に出ているが、これも何故か様々な表記の仕方である。やはり『西條八十全集 第九巻 歌謡・民謡Ⅱ』(国書刊行会、平成8年4月30日刊)のもの(126、448~449頁)によるべきかと思う。

○サヨンの鐘(昭和16年10月 西條八十作詞、古賀政男作曲、渡辺はま子歌)

嵐吹きまく峰(みね)ふもと 流れ危(あや)ふき丸木橋
渡るは誰(たれ)ぞ うるはし乙女 紅(あか)きくちびる ああ サヨン

晴の戦(いくさ)に出(い)でたまふ 雄々し師の君 なつかしや
担(にな)ふ荷物に 歌さえ朗(ほが)ら 雨はふるふる ああ サヨン

散るや嵐に 花一枝(はなひとえ) 消えて哀しき水けむり
蕃社(ばんしゃ)の森に小鳥は啼(な)けど なぜに帰らぬ ああ サヨン

清き乙女の真心を 誰(たれ)か涙に俣(た)ざる
南の島のたそがれ深く 鐘は鳴るゝゝ ああ サヨン

(3) 曲譜

⁷ 佐塚佐和子が歌ったという「サヨンの鐘」が如何なるものかについては、上記台湾のHP「古い記憶のメロディー」〈<http://www.geocities.jp/abm168/>〉上の「ゲストブック⑱」(平成19年6月19日記事)に、興味深い見解が出ている。また、これに関し、上記澤庵氏のHP「歌曲『莎韻之鐘』相關文献的查證」も併せ参照。なお、佐塚佐和子の持歌中「蕃社の娘」及び「思い出の蕃山」については、本HP中の別稿「佐塚佐和子歌「蕃社の娘」及び「思い出の蕃山」覚書」参照。(本註の後半部分: 六訂稿: 平成20年3月20日追加)

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/satsuka.pdf>〉

⁸ 台湾で発売されているカセット、CDの類には、「李香蘭集」と称しながら、「サヨンの鐘」については、胡美芳歌のものを入れているものがある。これは、専属会社の関係から、李香蘭(1920~)が「サヨンの鐘」を吹き込めなかったためと聞く。李香蘭が歌ったものは、後述の「サヨンの歌」(映画『サヨンの鐘』主題歌)である。

「サヨンの鐘」の曲譜については、多数の方が個人的に採譜しているが、公刊物としては、意外となかなか見当たらない。例えば、(財)古賀政男音楽文化財団の御示教では、『古賀政男 110 名曲集 古賀政男生誕百年記念 ギターでつまびく 我が心の歌』(全音楽譜出版社、平成 15 年 11 月刊)103 頁がある。

3 映画

(1) 映画資料

映画『サヨンの鐘』(満映・松竹提携作品、清水 宏〈1903~1966〉監督、昭和 18 年 7 月 1 日封切作品)については、平成年代に入ってから、ビデオ(松竹ビデオ事業部、VHS、平成 4 年 8 月 21 日刊)が発売された⁹。

その後、平成 25(2013)年春下記の DVD が出て更に便利になった。

『サヨンの鐘 松竹映画 銀幕の名花 傑作選』 [DVD] [2013 年 5 月 10 日発売]
李香蘭(出演), 近衛敏明(出演、1911~?), 清水宏(監督) 形式: DVD
〈http://www.shochiku-home-enta.com/shop/item_list?category_id=300762〉
〈<http://www.lohas-plaza.com/goods/SYK-148-157.htm>〉 (DVD 関係について
平成 26 年 11 月 2 日追加)

平成 26(2014)年 9 月 7 日に映画『サヨンの鐘』の主役の山口淑子氏(李香蘭、1920~2014)が逝去された(同年 9 月 14 日公表)。その後多くの追悼記事が出たが、

⁹ 映画『サヨンの鐘』については、例えば、窪田守弘(1944~)『銀幕の即興詩人 清水宏の生涯と作品』(風媒社、平成 20〈2008〉年 3 月 25 日刊)に詳しい。同書 44、87、90、119、120、144、150、151、153、216~224、244、331、352、358、379、380、400、401 頁(九訂稿:平成 22 年 1 月 16 日追加)。加えて、最近、中島利郎教授より、下記の件について御示教を賜った。厚く御礼申し上げる次第である。

「台湾研究的國際化與深化 一天理台灣學會第 20 屆國際學術紀念大會—

〈<http://www.toho-shoten.co.jp/toho/saiji10-025.html>〉

(中略) 研究発表 主催: 天理台湾学会、中国文化大学▼日時: 2010 年 9 月 11 日(土)9:30~16:30▼場所: 中国文化大学(台北市陽明山)張創辦人暁峰紀念館國際會議廳

第 3 分科会(日本語) 10:00~12:15 座長 李文茹(中略)

・川瀬健一 「『サヨンの鐘』が台湾で上映されなかったのは、何故か」

本記念大会につき、「記念講演および研究発表論文報告集」があり、C4-1~C4-12 頁に、川瀬氏の研究発表論文が掲載されている。C4-12 頁には、【主要参考文献】が記載されている。貴重である。なお、前掲渡辺はま子「思い出『長谷川清伝』(長谷川清伝刊行会、昭和 47 年 1 月 25 日刊)参照(十訂正稿:平成 22 年 10 月 8 日追加)。

特に映画『サヨンの鐘』関係については、近藤伸二教授「李香蘭が残した足跡（連載）最近の台湾情勢」『台湾協会報』第 721 号(同年 10 月 15 日刊)がある。(平成 26 年 11 月 2 日追加)

(2) 映画主題歌、挿入歌

映画『サヨンの鐘』の主題歌、挿入歌のレコード(A面「サヨンの歌」¹⁰、B面「なつかしの蕃社」¹¹)については、戦後のものとして、「日本映画主題歌集五

¹⁰ 従来、「サヨンの歌」は、ネット上では、メロディーだけでは、例えば、上記台湾の HP 「古い記憶のメロディー」〈<http://www.geocities.jp/abm168/>〉中の「軍歌、戦時歌謡アルバム」収録のものがあったが、平成 20(2008)年 3 月 28 日、「You Tube」に、李香蘭歌の当時のレコードが掲載された〈<http://jp.youtube.com/watch?v=g3gO5fOpRck>〉。歌詞は下記のとおりである。(七訂稿:平成 20 年 4 月 2 日追加)

「サヨンの歌」(映画『サヨンの鐘』〈昭和 18 年 7 月 1 日封切〉の挿入歌〈主題歌〉、レコード〈昭和 18 年 5 月 20 日発売〉A 面)(B 面下記「なつかしの蕃社」)

西条八十(1892~1970)作詞、古賀政男(1904~1978)作曲、李香蘭(1920~)歌

1 花を摘み摘み 山から山を 歌いくらして 夜霧に濡れる わたしや気まぐれな 蕃社の娘 親は雲やら 霧じゃやら ハイホー ハイホー

2 谷の流れが 化粧の鏡 森の小枝が 緑の櫛(くし)よ わたしや朗らか 蕃社の娘 花のかんむりで 一踊(ひとおどり) ハイホー ハイホー

3 月の夜更けの 杵唄(きねうた)聞いて 何故に涙よ ほろほろ落ちる わたしや年頃 蕃社の娘 深山(みやま)育ちの 紅(あか)い花 ハイホー ハイホー

4 紅(べに)の檜(ひのき)に 黒髪寄せて 遠く眺める 浮世の灯かり 泣くな可恋鳥(カーレン) おまえが啼けば 山の蕃社に 霧が来る ハイホー ハイホー

¹¹ 従来、「なつかしの蕃社」は、ネット上では、メロディーだけでは、例えば、上記台湾の HP 「古い記憶のメロディー」〈<http://www.geocities.jp/abm168/>〉中の「軍歌、戦時歌謡アルバム」収録のものがあったが、平成 20(2008)年 4 月 1 日、「You Tube」に、霧島 昇・菊池章子歌の当時のレコードが掲載された〈<http://jp.youtube.com/watch?v=INK3eHxocRs>〉。歌詞は下記のとおりである。(七訂稿:平成 20 年 4 月 2 日追加)

「なつかしの蕃社」(映画『サヨンの鐘』〈昭和 18 年 7 月 1 日封切〉挿入歌、レコード〈昭和 18 年 5 月 20 日発売〉B 面)(A 面上記「サヨンの歌」)西条八十(1892~1970)作詞、古賀政男(1904~1978)作曲、霧島 昇(1914~1984)・菊池章子(1924~2002)歌

1 春はやさしい 緋桜(ひざくら)が 赤く七つの 峰染めて
谷はペタコの 歌ばかり おもひでの おもひでの
蕃社(ばんしゃ)の村はなつかしや

戦前編 1941~44」(コロンビアミュージックエンタテインメント、平成7年9月30日刊、SP復刻版、曲目解説 森 一也)がある。映画の最後の場面では、歌「サヨンの鐘」の四聯も歌われている。詳細は、以下のとおりである。なお、これらの歌詞を掲載したものとしては、前掲『西條八十全集 第九巻 歌謡・民謡Ⅱ』(国書刊行会、平成8年4月30日刊)が参考になる。

- ①「サヨンの歌」(A面 映画『サヨンの鐘』主題歌、西條八十作詞、古賀政男作曲、仁木他喜雄〈1901~1958〉編曲、李香蘭(1920~)歌、コロンビア、昭和18年5月20日発売)
- ②「なつかしの蕃社」(B面 映画『サヨンの鐘』挿入歌、西條八十作詞、古賀政男作曲、霧島 昇〈1914~1984〉・菊池章子〈1924~2002〉歌)
- ③「山の合唱」(西條八十作詞、古賀政男作曲、昭和18年1月、映画『サヨンの鐘』挿入歌。但し、これはレコード化はされずとの由。)

4 田北正記氏のこと

「サヨンの鐘」のモデルになった田北正記氏(昭和12〈1937〉年12月27日~同13〈1938〉年9月27日 台北州蘇澳郡リヨヘン駐在所勤務の警手、当時26歳、?~1980、享年68)については、例えば、次のことがわかっている。

戦後、郷里宮崎市の『宮崎日日新聞』昭和54(1979)年3月26日第14面に同氏の回想談(『サヨンの鐘』のモデル健在 田北さん 宮崎市に 台湾娘、哀話の真相を語る)の記事、同氏の写真入り。)が掲載されていること、及びその後同氏が事故死されたことは既に判明していた(下村教授前掲論説161、162頁。)が、先頃、識者より、田北氏がその翌昭和55(1980)年1月14日に宮崎市で交通事故にて逝去されておられていたことを御教示いただいた(『宮崎日日新聞』昭和55年1月16日第13面記事参照。)。ただし、同記事では、「サヨンの鐘」のことについては、何も言及されていない。

2 霧がふるゝゝ 秋の夜に 聞いた杵歌(きねうた) 愛の歌
旅のところが また痛む おもひでの おもひでの
蕃社の村は なつかしや

3 けふが別れと ふり返る 小雨さびしい 山の径(みち)
泣いて手をふる 君や誰(たれ) おもひでの おもひでの
蕃社の村は なつかしや

(註): ペタコは台湾にいる頭の白い鳥の名。「白頭鳥(ペタコ)」: 昭和3(1928)年 野口雨情(1852~1945)作詞、中山晋平(1887~1952)作曲、平井英子(1918~)歌

5 おわりに

歌「サヨンの鐘」については、当然のことながら、一部ではいろいろな意見もあるやに聞くが、台湾関係の方々にとっては懐かしく忘れ得ぬものであり、これからも長く歌いつがれていくことが望まれる¹²。

(以上)

¹² 「サヨンの鐘」関係の原典研究は、近年著しく進捗しつつある。平成 15(2003)年 2 月に、映画脚本『サヨンの鐘』（『台湾時報』281 号、昭和 18 年 5 月 15 日刊）を収録した中島利郎編『台湾戯曲・脚本集 5』（日本統治期台湾文学集成 14、緑蔭書房、平成 15 年 2 月 28 日刊。391~410 頁に収録。）が刊行されていたが、平成 19(2007)年 6 月には、待望の下村作次郎編『「サヨンの鐘」関係資料集』（日本統治期台湾文学集成 28、緑蔭書房、平成 19 年 6 月 30 日刊）が刊行された。なお、これに関し、下記 CiNii の記載参照。

〈<http://ci.nii.ac.jp/ncid/BA82549722>〉（八訂稿：平成 20 年 5 月 3 日一部修正、十訂稿：平成 26 年 11 月 2 日一部修正）